

# 市立大津市民病院雑誌 投稿規定

2024年9月改訂

## I 総則

1. 本誌は市立大津市民病院の学術機関誌として年1回発行する。
2. 本誌の編集者は学術図書委員会(委員長)、発行者は市立大津市民病院(院長)とする。
3. 本誌に掲載する内容は、
  - ①医学・医療に関する総説、原著論文、症例報告、院内症例検討会やセミナーレポート
  - ②各所属発表
  - ③看護研究、ケーススタディ報告
  - ④業績録
  - ⑤その他、病院の運営や活動紹介など、学術図書委員会が適当と認めた内容とする。
4. 投稿原稿の著者は市立大津市民病院の職員であることを原則とするが、当院職員以外であっても学術図書委員会の承認を得た場合はこの限りではない。論文の掲載の採否は学術図書委員会が決定する。また学術図書委員会から投稿を依頼することができる。
5. 投稿論文は他誌に発表されていない、または投稿中でないものとする。但し、学会や研究会での発表はこの限りではない。
6. 投稿に関しては、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省)、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」(文部科学省、厚生労働省)を遵守すること。特にプライバシー保護及び倫理的配慮において、個人を同定できないよう個人情報の保護には十分に留意する。
7. 研究内容が「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の適用となる研究は、医療倫理委員会での審査、承認を得て研究を行い、その旨本論文中に明記する。
8. 利益相反(Conflict of Interest:COI)に関する事項がある場合には、論文の末尾(引用文献の前)に記載する。
9. 本誌に掲載された論文の著作権は、市立大津市民病院に帰属する。

10. 本誌の論文は国立国会図書館(ISSN:1349-4600)、医学中央雑誌(本誌コード:J04976)のデータベースに登録される。
11. 著者には別冊1部を贈呈する。

## II 執筆様式

1. 原稿の形式は、表紙、抄録(英文400words以内または和文600字以内)、本文、引用文献、表、図の順とする。「各所属発表」、「看護研究」、「ケーススタディ報告」では抄録、キーワードはなくてもかまわない。
2. 原稿は、A4判800字詰(32文字×25行、12ポイント)とし、出力紙(1部)とともに電子媒体(電子メールも可)で提出する。
3. 表紙には、原稿の種類(総説、学術論文、症例報告、各所属発表、看護研究、ケーススタディ報告等)、題名、所属名、著者名(共著者名を含む)、キーワード(学術論文5個以内、症例報告3個以内)、利益相反(COI)の有無を記載する。筆頭著者が初期臨床研修医等の研修中の身分である場合は、研究指導者をsecond author(corresponding author)とする。
4. 「学術論文」の本文の構成は「目的」または「はじめに」、「対象」、「方法」、「結果」、「考察」、「結語」を基本とする。「症例報告」においては、「対象」「方法」「結果」をまとめて「症例」とする。略語は抄録・本文ともに初出時に、正式名称(略語)の形で記載する。
5. 「学術論文」の原稿の総枚数は原則として30枚以内、「症例報告」、「各所属発表」、「看護研究」、「ケーススタディ報告」は20枚以内とする。
6. 書体と用語は、口語体、常用漢字、現代かなづかい、ひらがな交じり、横書きとする。欧文、数字、小数点は半角を使用し、句読点は「。」と「、」を使用する。単位はCGS単位(例:cm mm m<sup>3</sup> kg mg/dl °C)を用い、外国の人名は原語を、薬品などの化学用語は学術名を用いることを原則とする。
7. 図(写真を含む)、表は、原則、白黒での掲載とする。図、表は、1図または1表をそれぞれ原稿1枚として枚数計算し、タイトルと説明を入れること。但し、図の説明は別紙にまとめて記載してもかまわない。図、表は、番号(図1、

図2、… 表1、表2、… Fig.1、Fig.2、… Table 1、Table 2、…)をつけ、この番号に従って本文中で引用する。他文献から図、表を転載する場合は必ず出典を明示し、引用許諾を示すこと。

8. 引用文献は、主要なもののみとし、本文には引用箇所の文末に肩付きで通し番号をつける。記載は引用順に一括し、下記形式に従う。欧文雑誌の略称はIndex Medicus に従い、和文雑誌は公式の名称または医学中央雑誌略名表による。著者名は、著者が3名以下の場合は全員を列挙し、4名以上の場合は3名まで列記し、その後「他」、または「et al」を付ける。

a)雑誌…引用番号)著者名:題名.雑誌名 巻:頁-頁, 発行年(西暦)

(記載例)

1)Guller U, Turek J, Eubanks S, Delong ER, et al: Detecting pheochromocytoma: defining the most sensitive test.Ann Surg 243:102-107, 2006

2)伊藤 恒, 吉賀正亨, 大西静生, 飯室麗香, 他:酸メキシレチンが奏効した難治性吃逆の1例. 日内会誌92: 316-317,2003

b)単行本…引用番号)著者名:書名.第何版,p頁-頁, 発行所,その所在地,発行年(西暦)

(記載例)

3)鈴木和子, 渡辺祐子:家族看護学 理論と実践. 第4版, p242, 日本看護協会出版会, 東京, 2012

4)Bloom W, Fawcett DW: A Textbook of Histology. 10th ed, p179-227, Saunders Co, Philadelphia, 1975

c)分担執筆…引用番号)著者名:章の表題.編集者名,書名,第何版,p頁-頁,発行所,その所在地,発行年(西暦)

(記載例)

5)Mohr JP, Gautier JC: Internal carotid artery disease. In: Mohr JP, Choi DW, Grotta JC, Weir B, et al (eds),Stroke: Pathophysiology, Diagnosis, and Management, p 75-100, Churchill Livingstone, Edinburgh, 2004

6)多村幸之進,小柳泰久:鼠径部ヘルニアの手術手技 1.Marcy法,Iliopubic tract repair法.沖永功太編,鼠径部ヘルニアの手術,p34-40,へるす出版,東京,2003

9. 論文の採否は査読委員の査読結果により、編集委員会で最終決定される。校正は原則として著者校正1回とする。但し、査読委員及び編集委員会が必要だと判断する場合はこの限りでない。

### Ⅲ 付則

本規定は2017年3月1日より実施する。

本規定は2020年9月1日より実施する。

本規定は2021年9月1日より実施する。

本規程は2024年9月1日より実施する。

本規定は学術図書委員会での決議を経て変更することができる。